

三家 俊彦

「When you hear the sound of feathers」

2022.8.27(sat) — 10.16(sun)



「The aluminum garden -structural studies of plants-」 2022
Aluminium Foil Mirror polished surface 0.2mm

この度 rin art association では三家俊彦の個展「When you hear the sound of feathers」を開催いたします。

三家は幼少期の頃より台所用のアルミホイルを使った彫刻を遊びの中で制作しており、2010年岡本太郎現代芸術賞のTARO賞を受賞した300体の彫刻を並べたインスタレーション「The indignant」は幼少期の記憶のストレージからの再構成と言えます。

その後ドイツに渡ってからは0.2mm厚のアルミホイルを用いて、より複雑で精巧な彫刻作品を発表しております。

2014年から制作を開始した《The Aluminum Garden-Structural Studies of Plants-》では植物の構造を研究し、様々な植物をモチーフにした彫刻が有機的な庭園を形成しております。

今展では鏡面のアルミホイルを用いることでより環境と呼応したりフレクションが生じる新作の彫刻とレリーフ作品、ステンレスにグラインダーで彫刻した平面作品をギャラリーの2フロアを使って展示いたします。

コロナウイルスの流行以降、以前より続けている植物の構造を研究する作品 Aluminium garden -Structural studies of plants- を野外で展示し、庭師のようにそれを観察そして管理している。アルミニウムの植物達は雨風に晒され、虫がその葉に卵を産み、ある時は地面が隆起し、少しずつその環境にあった形に変化していった。ガーデンは、その時の空の色、取り巻く樹々の色で常に違う印象を持ち、変化し続け、実際の自然との共存のラインを探しているようにも思えた。

本個展”When you hear the sound of feathers “はその野外展示を経て得たものを、室内空間で新たな形で展開されるものである。鏡面のアルミホイルシートを用いた、植物の彫刻作品、半立体のレリーフ作品、鏡面のステンレスの平面作品。それらの作品の鏡面同士が反射し、互いに映り込み、呼応し合う。それは見る者の体の動き、呼吸や心臓の鼓動による微細な動きさえも感じ取り、その印象を変える。再び同じ姿を見ようと思っても、もう見ることは出来ない。あるものは実体であり、あるものは鏡面に映った虚像であり、まるで定まることなく、現れては消えて変化し続けるその図像は、その不確かさより、鑑賞者の過去の記憶と結びつき、それ自身もまた定まらない記憶となる。作品それぞれが互いに反応し一つの風景を作り出す時、自然と同様の揺らぎが空間の中に生まれる。

三家 俊彦

三家 俊彦 (みつや としひこ)

1979年 大阪府生まれ。2004年 成安造形大学造形美術科彫刻クラス卒業。

主な個展に 2009年 「still river」 Kodama Gallery (京都)、2015年 「THE ALUMINIUM GARDEN - STRUCTURAL STUDIES OF PLANTS」 STUDIO PICKNICK(ベルリン)、2016年 「Far from static」 ガトーフェスタハラダ本社ギャラリー (群馬)、2017年 「Leaking Light」 西武渋谷店 B館 8F オルタナティブスペース (東京)、主なグループ展に 2014年 「プレイヤーズ 遊びからはじまるアート展」 アーツ前橋 (群馬)、2016年 アートプロジェクト高崎 「THE ECHO」 高崎シティギャラリー第一展示室 (群馬)、2019年 「VOCA展 2019」 上野の森美術館 (東京)、2020年 「Sculpture & Nature」 Schlossgut Schwante/Oberkrämer (ドイツ) など。

[水-日] 11:00 - 19:00 [月-火] 休廊

contact

rin art association

370-0044 群馬県高崎市岩押町 5-24

t: 0273-87-0195 e: contact@rinartassociation w: http://rinartassociation.com